

審判研修 道外派遣参加報告書

大会名 第28回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会	期間 2015年3月27日(金) ~ 3月30日(土)
開催地 東京都 神奈川県 埼玉県 千葉県	会場 東京体育館 他
参加者 田中 充	所属地区名 名寄地区
講師 Aグループ…吉田正治 氏、御手洗 亮 氏	
実技研修、座学研修等の記録 ◇2パーソン分解練習 …ハーフコート及びオールコートでの分解練習 ◇モデルゲームを使用した3パーソン研修 …高校生のモデルゲーム、8分-2分-8分を1本	
実践実技1 日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2015年3月28日 (土)	対戦カード 男子予選リーグA 長崎 65 vs 55 島根
主審 田中 充	相手審判 神奈川県 加藤 正和 氏 (公認)
ゲーム前のカンファレンス内容 2人の視野の分担、3・4番エリアやリードが右に行った場面、オールコートディフェンスへの対応をそれぞれ確認した。それぞれのチームに190cm前後の選手がいるため、インサイドの攻防及びリバウンドに対して2人の協力をしていこうと話した。	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 神奈川県 長谷川 裕 氏 (A級) ゲーム的にはしっかりまとめていたと思う。相手審判も含めてゲームを管理しているように感じた。センターの守り方について線を引く場面をもっと簡単でも良かったと思う。	
ゲーム感想 中学生ながらオフボールでのスクリーンプレイやコンタクトが多いゲームだったのでパートナーと協力していくことを心がけた。選手が粗暴な振る舞い及びプレイになりがちな傾向を持っていたので、最後まで緊張感を持って取り組む必要があった。そういった意味では自分の表現方法などを含めてこれまで道内で取り組んでいることがとても役に立ったゲームであった。	
実践実技2 日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2015年3月29日 (日)	対戦カード 男子決勝トーナメント1回戦 埼玉 56 vs 49 三重
主審 田中 充	相手審判 鳥取県 國富 史郎 氏 (公認)
ゲーム前のカンファレンス内容 2人の視野の分担、3・4番エリアやリードが右に行った場面、オールコートディフェンスへの対応をそれぞれ確認した。2人の協力の中でお互いに眼の当たっていないプレイをなくすように確認した。また、どちらもドライブからの1on1を多用するのでリードでしっかり受けることと、リバウンド時に2人で協力して判定していくことを確認した。	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 茨城県 武藤 陽子 氏 (A級) 危ないところには必ず足を運んで判定している危機感の持ち方が良かったと思う。選手やベンチに対しても必要に応じてアイコンタクトしたり話を聞いたりなど対応しているところが見ていて参考になった。	

ゲーム感想

特に難しいケースはなかったが、相手審判を含めてより良い運営を行うという観点では、もっとできたように感じる。波があるのが人間なので、相手審判が迷いがあるときなどは声をかけたり、自分の位置取りで示したり、アイコンタクトの仕方を工夫したりなど、相手のエリアを吹き込むという選択肢を使わないでコントロールしていく力を身につけたいと感じた。

実践実技3

日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など

2015年3月30日 (月)

対戦カード 男子決勝 岡山 64 vs 39 埼玉

第一副審 田中 充

相手審判

主審 玉木 彰治 氏(本部・AA)

第二副審 東條 輝正 氏(東京・A)

ゲーム前のカンファレンス内容

3パーソンのメカニックの確認、ドライブに対する対応などを確認

ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 静岡県 青山 宜正 氏(A級)・長谷川 裕 氏(A級)

3人で協力して1つ1つ丁寧に範囲されていたと感じる。1つだけアピールのあったプレイがあったが、それはメカニックのエラーから生じているのでそれを確認。

ゲーム感想

この大会で自身3度目の男子決勝の割当をいただくことができた。3パーソンでのゲームであったが、これまでの経験もあり、東京体育館のメインコートで今まで持っているものは出せたと感じている。メカニックのエラーで1つアピールされたプレイがあったので、エラーを無くすることと、もしそれでもエラーが起きたときに積極的にフォローしていく姿勢が必要だと感じた。

まとめ

今年も今大会へ参加させていただき、参加回数もそこそこになってきました。そういった意味で、与えられたどのゲームも上級としてまとめられるように意識したという意味では、昨年度よりも自分の気持ちの持ち方がいい意味で違って来たと思います。周囲の方々にもその点では評価をいただいたことにより、自信につながる大会でもありました。これまで道内や地元地区でご指導いただいた方々のおかげと感謝する次第です。

今後はこの経験を糧として、さらに上のステップへと上がるために、自分の判定基準を安定して示すことや位置取りを大切にしつつ、相手審判も含めてゲームを運営していくことも含めてより研鑽を積んでいきたいと思えます。これまでとかわらず、この機会を財産とし、自分自身のさらなるレベルアップのためにモチベーションを高く保ち活動を続けていきたいと思えます。

今回もこのような機会を与えてくださった道協会並びに地区協会の皆様に感謝しつつ、この場を借りてお礼申し上げます。